

# 企業のBYODに最適なセキュリティと運用管理性を備えたIT基盤を実現

企業がスマートデバイスの有効活用を促進するには、強固なセキュリティを柱に、優れた運用管理性や利便性なども兼ね備えたIT基盤が必須である。とりわけBYOD環境となると、より高次元のセキュリティと運用管理性が求められる。日立ソリューションズは無線LANとアプリケーション制限、リモートデスクトップの三つを切り口に、ユニークな製品を用いたソリューション群によって、BYOD環境に最適なIT基盤を具現化する。

BYOD環境での企業のスマートデバイス活用を支えるIT基盤は、必要とされるセキュリティや運用管理性を満たさなければならない。日立ソリューションズはその構築に最適なソリューション群をそろえている。

## セキュアな無線LAN環境を容易に構築・運用可能

まず、スマートデバイスの社内利用には、セキュアな無線LAN環境が欠かせない。その構築に最適なソリューションとして、日立ソリューションズが提供するのがAruba Networksの「Aruba」シリーズだ。アクセスポイント(AP)と、AP管理や暗号化/認証処理を一元的に行うコントローラーの製品ファミリーで構成される。

Arubaは様々な機能によって、強固な無線LANセキュリティ対策を実施する。例えば、認証サーバーと連携して、ユーザーグループごとの権限に応じたきめ細かなアクセス制御を行うPEF (Policy Enforcement Firewall) 機能や、不正APを検知し、通信を遮断するエアモニター機能を搭載。さらには、暗号モジュールのセキュリティ要件の米国連邦標準規格「FIPS 140-2」に準拠した暗号化、セキュリティの国際認

証であるICSAのFirewall認定を取得したファイアウォールなどもあわせ、米国防総省の高水準のセキュリティを確保する。

また、自宅や遠隔拠点のAPをインターネットにつなぐだけで、社内のセキュリティポリシーがそのまま適用され、社内LAN環境に接続可能なRAP(Remote Access Point) 機能を搭載。一般的なVPNルーターに比べて、拠点間ネットワークを容易に実現できる。

Arubaは無線LANの運用管理も最適化する。その中心がARM(Adaptive Radio Management) 機能だ。電波の強度やチャネルを自動調整したり、AP故障時は他APで電波範囲をカバーしたりするなど、通信の安定性や業務継続性を高めつつ、運用管理負荷を大幅に軽減する。

## アプリケーションを認識し危険な通信を遮断して対処

BYOD環境での企業のスマートデバイス活用では、個々の端末上で動作するアプリケーションの管理もこれからは不可欠となる。そのような課題への答えとなるソリューションが、パロアルトネットワークスのPAシリーズだ。

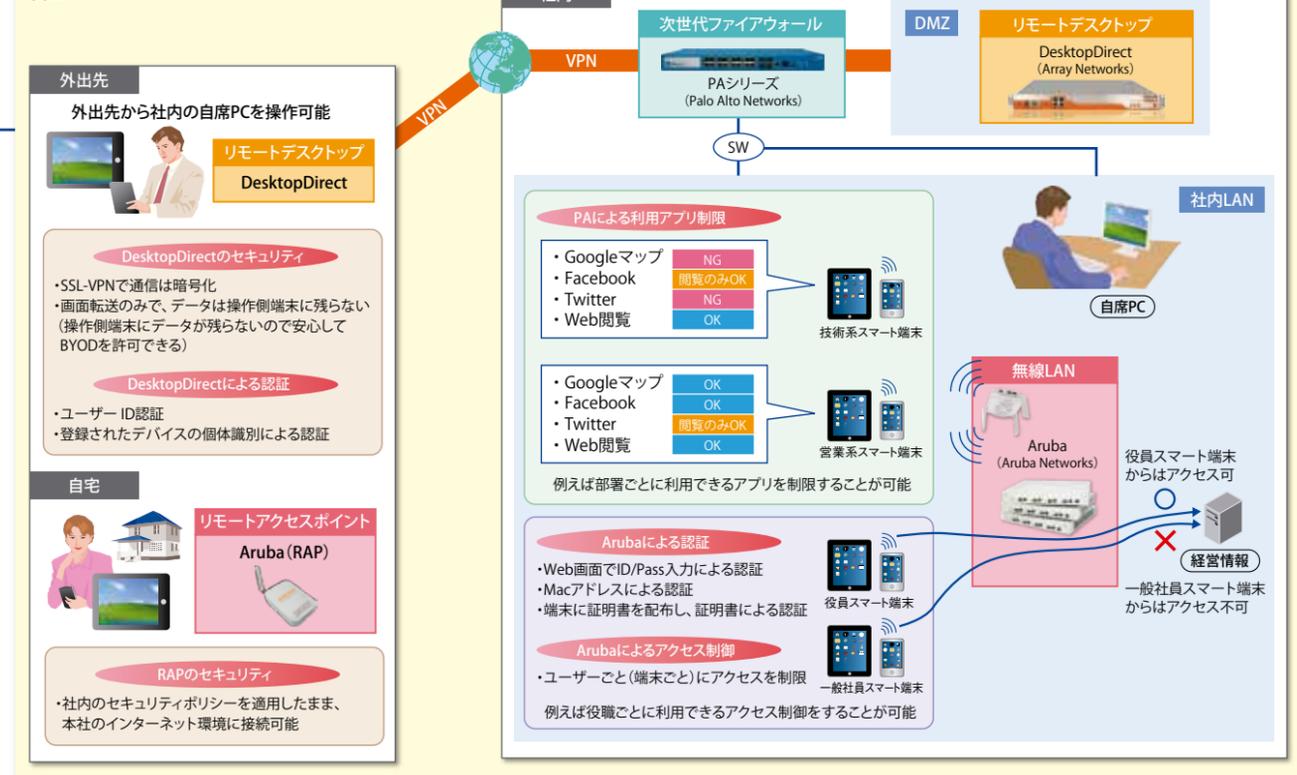
同シリーズはポート番号ではなく、

アプリケーションを基準にアクセスコントロールを行う次世代ファイアウォールである。

PAシリーズの強みは、アプリケーションに応じて通信を制限できる点である。すべての通信について、ポートやプロトコル、SSL暗号化の有無にかかわらず、アプリケーションを識別できる。未知のアプリケーションの通信も遮断可能だ。同時に、IPアドレスではなく、ユーザー名でユーザーを識別。その両者の組み合わせでアクセスコントロールを行えるため、許可されたユーザーによる許可されたアプリケーション以外の通信を遮断でき、スマートデバイス経由での情報漏えいなどのセキュリティ脅威を最小化する。

あわせてPAシリーズは標的型攻撃対策機能も提供する。高度化が進む侵入手法に対して、アプリケーション識別などによって、脅威の侵入・活動の経路を遮断。そして、未知のマルウェアの侵入を検知・防御する機能も装備。マルウェア検知機能はクラウドサービス「WildFire」で提供することで、ゼロデイ対策を実現している。既知のマルウェアには不正侵入防御(IPS)などで対策。その上、端末の振る舞いからマルウェアの感染を検出するボットネッ

日立ソリューションズのBYODソリューションのイメージ



ト検知機能も備えているなど、あらゆる角度から標的型攻撃対策を実施する。

## リモートデスクトップでオフィスPCをセキュアに利用

外出先など社外からモバイル端末などを使い、オフィスのデスクトップPCにあるデータやアプリケーションを利用するための仕組みであるリモートデスクトップ。端末にはオフィスのデスクトップPCの画面情報しか転送されず、データは残らないため、情報漏えいの心配が少なく、自然災害やパンデミックの対策などBCP(事業継続計画)、在宅勤務などによるライフワークバランス向上などの目的でも注目が高まっている。

近年はリモートデスクトップの端末と

して、コンパクトなボディや軽快な操作、素早い起動などの理由から、スマートデバイスを使用するケースが増えており、スマートデバイスにも適したリモートデスクトップ環境が求められている。その構築に最適なソリューションがArray Networksの「DesktopDirect」だ。DesktopDirectはスマートデバイスから利用する場合、端末本体のパスワードロックに始まり、DesktopDirectのユーザーID認証の後、登録された端末の個体識別による認証といった3ステップの認証を実施することで、高いセキュリティを確保する。

DesktopDirectは、スマートデバイスからリモートで、オフィスのデスクトップPCの電源をONにできる「Wake-on-LAN」機能も特長。不要なときは電

源をOFFしておくことで節電を推進できる。また、電力トラブルや災害が原因で電源が落ちてしまったオフィスのデスクトップPCをリモート接続時に起動して、再び利用可能な状態にできるため、事業継続性にも寄与できる。

日立ソリューションズはこれらの「Arubaシリーズ」、「PAシリーズ」、「DesktopDirect」の三つを軸に、企業のスマートデバイス活用に最適なIT基盤を実現する。企業ネットワークの分野で長年培った技術とノウハウを活かし、BYOD適用に関して多彩な提案が可能であり、コンサルティングから構築、保守サポートまでのトータルソリューションを提供する。

※記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。